



4. 景観形成の基本方針



基本理念や目標を踏まえ、自然、住宅地、産業、拠点、交通・河川軸、歴史、眺望といった景観を構成する7つの要素に沿った景観形成の基本的な方針を、次のとおり定めます。

（１）豊かな自然を育む景観形成を進めるために

- ① 自然地の保全と周辺環境整備
- ② 水辺の自然景観軸の形成
- ③ 盆地を縁取る緑地の保全
- ④ 身近な緑地の保全と創出
- ⑤ 特色ある農業景観の形成

（２）居住環境に配慮した景観形成を進めるために

- ① 調和のとれた住宅地景観の形成
- ② 魅力的な住宅地景観の形成
- ③ 都心居住を推進する景観形成

（３）産業活動がつくりだす景観形成を進めるために

- ① 魅力的な商業景観の形成
- ② 潤いのある工業景観の形成

（４）拠点を特徴づける景観形成を進めるために

- ① 緑と調和した文化拠点の景観形成
- ② 魅力的な交流拠点の景観形成
- ③ 環境を生かした公園拠点の景観形成
- ④ 学術拠点の景観形成
- ⑤ 自然環境と調和した観光拠点の景観形成

（５）交通・河川軸に沿った景観形成を進めるために

- ① 沿道の街なみ景観の形成
- ② 魅力的な鉄道沿線の景観形成
- ③ 河川と一体的な市街地景観の形成

（６）歴史資源を活用した景観形成を進めるために

- ① 歴史と文化の界隈の景観形成
- ② 伝統的な素材を生かした景観形成
- ③ 名所・旧跡のイメージアップ

（７）福島らしい眺望を守る景観形成を進めるために

- ① 眺望景観の保全
- ② 眺望視点場の整備

(1) 豊かな自然を育む景観形成を進めるために

福島盆地を囲む吾妻連峰、阿武隈山系の山並みや、阿武隈川、荒川などの水辺、農村集落などの里地・里山、花の名所、本市のシンボルである信夫山、市街地周辺に広がる農地、果樹畑など、豊かな自然景観や田園景観を保全し、盆地特性を生かしながら、周辺環境と調和した景観の形成を図ります。

① 自然地の保全と周辺環境整備を推進します

本市の自然は、火山、渓谷、山麓、丘陵、福島盆地に広がる市街地と農地、さらには阿武隈川を中心とした水系、市街地のほぼ中央に位置する信夫山と、豊かで変化に富んでおり、“自然に恵まれたまち”というイメージを形成しています。

② 水辺の自然景観軸の形成を推進します

阿武隈川が市街地に沿って流れ、市民に豊かな潤いを与えています。
その流域には様々な風物詩があり、白鳥の飛来地としても定着しています。
さらに、荒川、松川、摺上川などの多くの河川が盆地を潤し、水辺の樹林地や田園風景と一体となって、“福島らしい”穏やかな水辺景観を形成しています。

③ 盆地を縁取る緑地の保全を推進します

福島盆地は緑豊かな山々で取り囲まれ、中心市街地に接して信夫山や弁天山などの里山が存在します。
これらの緑地は、地域の自然環境を育むとともに、市街地の景観の背景として、盆地を縁取る緑豊かな景観イメージを形成しています。

④ 身近な緑地の保全と創出を推進します

神社仏閣の緑地や民家の屋敷林などは長い時を経て維持され、地域の身近な緑地として親しまれています。
郊外では、公園、街路樹などの緑地整備が進められているものの、市街地における緑地の創出が求められています。

⑤ 特色ある農業景観の形成を推進します

本市は、多彩な農産物の産地であり、その多くは果樹園や水田で、郊外や市街地の周辺に分布しています。
吾妻連峰を背にして咲き乱れる、もも、なし、りんごなどの花、一面に広がる水田の稲穂などが“福島らしさ”を演出しています。
市街地の周辺から丘陵部にかけては、農村集落が点在しており、ふるさとの原風景をイメージさせる景観となっています。
集落や農地は、里山の自然と一体となって地域の生態系を維持する環境として重要な要素であり、市民が自然に触れ合い、体験する場としても注目されています。

(2) 居住環境に配慮した景観形成を進めるために

住宅地は、地域への愛着を育み、誇りを持って住み続けられる居住環境の形成に重要な地区であり、地域の自然や歴史的特性などを生かしながら、街なかの緑化や花を生かした景観形成の拡大、住民主体の個性的で調和のとれた住宅地景観の形成、都心居住を推進する景観の形成など、安らぎと潤いのある住宅地景観の形成を図ります。

① 調和のとれた住宅地景観の形成を推進します

景観住民協定や地区計画などが定められた地区では、地区独自のルールに沿って調和のとれた美しい街なみの形成を目指しています。

潤いをもたらす住宅地景観を形成するために、生垣などによる緑化が求められています。

② 魅力的な住宅地景観の形成を推進します

地域には各々の自然環境や歴史文化があり、これらを背景とした特性があります。ひっそりとたたずむ集落や旧街道沿いは、風土とともに育まれてきた民家や商家がわずかに残されています。

③ 都心居住を推進する景観形成を推進します

都心及び都心周辺地区では、中心市街地活性化の取り組みにより都心の賑わいを取り戻すために、多様な生活様式に対応した都市型住宅の建設が進められています。

また、東日本大震災以降、都心の防災性を高めるために、安全でゆとりのある居住環境の整備が強化されています。

(3) 産業活動がつくりだす景観形成を進めるために

商業、工業などの産業活動によって作りだされる景観は、人々の暮らしを支え、魅力、賑わい、活力を生み出すものであり、産業活動とのバランスを図りながら、周辺の住宅地や自然環境との調和に配慮した景観の形成を図ります。

① 魅力的な商業景観の形成を推進します

福島駅を中心として都心商業地が形成され、さらに主要幹線道路に沿って商業地が連なっています。

近年は、郊外部の大規模店舗の相次ぐ立地や都市間競争の中で空洞化が進み、中心市街地としての魅力や賑わいが低下しつつあります。

② 潤いのある工業景観の形成を推進します

新たに造成された工業団地は、市内各所に整備され、豊かな自然環境に囲まれています。一方、従来から工場が立地する地域では、住宅との混在もみられるなど、良好な景観が形成されていない地区も存在します。

(4) 拠点を特徴づける景観形成を進めるために

文化・交流施設の集積地や大規模公園、学術拠点など、景観形成上の重要な拠点となる地区については、地域特性に配慮しながら、調和や魅力、さらには品格ある景観の形成を図ります。

① 緑と調和した文化拠点の景観形成を推進します

信夫山の麓には、美術館、図書館、音楽堂、文化センターなどの文化施設が立地しており、本市の文化の拠点となっています。

また、祓川の整備により歩行空間が確保され水と緑の潤いをもたらしています。

② 魅力的な交流拠点の景観形成を推進します

県庁周辺は、本県の行政、交流、情報、文化などの核となる地区であり、平和通りが交通の要所となり、県庁通り、紅葉山公園、阿武隈川河畔などが一体の交流拠点を形成しています。

また、市役所周辺は、市役所北側の通りを中心に行政サービス機関がまとまっており交流拠点を形成しています。

③ 環境を生かした公園拠点の景観形成を推進します

あづま総合運動公園の周辺一帯は、荒川を中心に、四季の里や県内でも有数の優れた樹林地である水林自然林などがあり、自然環境に恵まれた交流、スポーツ・レクリエーションの拠点となっています。

また、あづま総合運動公園内の民家園には旧広瀬座などの歴史的建造物が復元されています。

④ 学術拠点の景観形成を推進します

国立大学法人福島大学や公立大学法人福島県立医科大学は、郊外の緑豊かな丘陵地に整備され、本市の学術拠点として素晴らしい景観を形成しています。

⑤ 自然環境と調和した観光拠点の景観形成を推進します

磐梯吾妻スカイラインは、吾妻連峰を縫うように走り、磐梯高原と並んで本県の観光の象徴となっています。

その中心となる浄土平や吾妻小富士付近からの眺望は、一切経山の雄姿や福島盆地、遠くは蔵王連峰に至るまでのパノラマを形成しています。

観光拠点としては、飯坂、土湯、高湯などの温泉郷があります。各々に歴史があり、周辺環境にも恵まれ、豊かな街なみが形成されています。

(5) 交通・河川軸に沿った景観形成を進めるために

主要幹線道路沿線や阿武隈川、荒川などの主要河川沿い、鉄道沿線については、市民はもとより来訪者の目に触れる機会も多く、景観の重要な骨格を形成していることから、連続性や周辺の自然、田園などの眺望景観にも十分配慮した魅力的な景観の形成を図ります。

① 沿道の街なみ景観の形成を推進します

現在整備が進められている東北中央自動車道は、福島大笹生インターチェンジ周辺の土地利用の検討が進められています。

中心市街地では、“レンガを基調としたレトロモダン”をイメージとした福島駅前通りリニューアル整備、福島県立医科大学の新学部の建設、大型医療施設の移転など、官民連携による中心市街地の活性化に向けた新東西動線軸形成の取り組みが進められています。

② 魅力的な鉄道沿線の景観形成を推進します

鉄道の車窓からは、市街地のほか吾妻連峰や阿武隈川、四季折々の田園風景などが広がり、本市の景観イメージを高める上で重要な役割を担っています。

特に、東北新幹線からの吾妻連峰や信夫山への眺望は、来訪者の第一印象となる重要な景観となっています。

③ 河川と一体的な市街地景観の形成を推進します

阿武隈川、荒川、松川、摺上川などの河川は、本市の景観を形成する骨格として位置づけられています。

阿武隈川には渡利の水辺の楽校、岡部の親水公園、さらには平成の大改修事業により河川の歴史と市街地を結び付ける御倉町の船着場が整備され、同時期に本市は日本銀行福島支店の役宅を取得し、「御倉邸」と名付け、河川敷と一体の御倉町地区公園として一般開放に至っています。

また、荒川には、河川敷に接し「桜づつみ公園」が整備され、市民の憩いの場として親しまれています。

(6) 歴史資源を活用した景観形成を進めるために

各地域の名所・旧跡・文化財、城下町としての歴史的街なみなど、市内に点在する歴史的な景観資源について、まちに深みを与え落ち着いた景観を形成するために、それらの保全、継承とともに、名所、旧跡などのイメージアップなど、歴史を偲び親しまれる景観の形成を図ります。

① 歴史と文化の界隈の景観形成を推進します

現在、本市には、まとまった形での歴史的環境はありませんが、各時代の町割りやまちづくりが幾重にも重なり、現在の景観が形成されています。

旧街道沿いや市街地においては、町家、寺社、史跡、近代の洋館などが存在し、歴史の名残をとどめている地区もわずかに残っています。

② 伝統的な素材を生かした景観形成を推進します

本市には、木材、石材、土などの自然素材をはじめ、レンガ、漆喰などの伝統的な素材を用いた古民家や蔵などの歴史的建造物が各所に残されており、長い年月を経て趣を増し、歴史を物語ると同時にまちの品格を高めています。

③ 名所・旧跡のイメージアップを推進します

信夫山は「御山」とも呼ばれ、信仰の歴史をもっており、いくつもの神社仏閣が存在します。

その他、市内に点在する名所・旧跡の多くは、自然環境に囲まれ、本市における重要な観光資源であるとともに、“福島らしさ”を醸し出す景観資源となっています。

(7) 福島らしい眺望を守る景観形成を進めるために

吾妻連峰や阿武隈山系の山並みへの景観や、信夫山などからの眺望など、福島らしい素晴らしい眺望景観を保全するとともに、眺望を阻害しない景観誘導や新たな眺望点の創出など、福島の魅力を引き立てる眺望景観の形成を図ります。特に推進すべき取り組みを以下に示します。

① 眺望景観の保全を推進します

吾妻連峰は、市内のあらゆる地点から眺めることができ、吾妻小富士の残雪は、雪うさぎ（種まきうさぎ）と呼ばれ、多くの市民や来訪者に親しまれています。

信夫山は、本市のシンボリックな存在となっており、山頂や山腹からは市街地が一望でき、市民にとっては身近な里山として重要な役割を担っています。

② 眺望点の整備を推進します

吾妻連峰、信夫山などの山頂、山腹などからは、四方の山並みや市街地などの素晴らしい景観を一望することができます。

それらの山頂などには、展望台や展望デッキが整備されてはいるものの、老朽化が進んでいるため、眺望施設や遊歩道などの改修と併せ新たな眺望点の創出が求められます。